

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 29

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		雄武浄化センター機器分解整備事業															
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	下水道係												
	管理職	職名	課長		職名	係長											
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	田原慎也										
事業の概要	雄武浄化センターの主要機器について、日常点検で異常音等が確認される機器及び定期整備が必要となる機器の消耗部品の取替を含む分解整備を実施し、機器更新時期までの延命化を行う事業であります。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)	<table border="1"> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>32,150 千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>32,150 千円</td> </tr> </table>		国・道支出金	千円	地方債	千円	その他	32,150 千円	一般財源	千円	事業費計	32,150 千円
国・道支出金	千円																
地方債	千円																
その他	32,150 千円																
一般財源	千円																
事業費計	32,150 千円																
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()												
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B											
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～															
	基本施策	17 上・下水道の整備															
	単位施策	2 下水道の普及促進															
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務													
	その他計画・根拠等																
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)											
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円											
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円											
	その他財源	6,090 千円	5,800 千円	8,900 千円	2,850 千円	8,350 千円											
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円											
	合計	6090 千円	5800 千円	8900 千円	2850 千円	8350 千円											

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	機器故障による浄化センターの機能停止。	分解整備機器数				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	汚水を浄化するための機器の安定稼働。	① 分解整備機器数/分解整備機器数の実績	指標(指標計算式/解説)			目標年度及び実績値
			目標年度	20年度		
			目標値	10 基		
			実績値	10 基		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	公共用水域の水質保全、快適な住環境が確保される。	②	達成度	100.0 %		
			目標年度			
			目標値			
			実績値			
内容(どのような手段で何を行ったか)						
民間業者による修繕の実施	民間業者に依頼し、機器の消耗部品の取替を含む分解整備を実施した。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するために必要な事業である。また、当該事業を実施しない場合には、公共用水域の水質悪化により快適な住環境に影響を与えるものです。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	機器の消耗部品の取替を含む分解整備により、機器の延命が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	雄武浄化センターの機器運転管理を委託している民間業者に依頼することで経費の軽減を図ったことにより、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

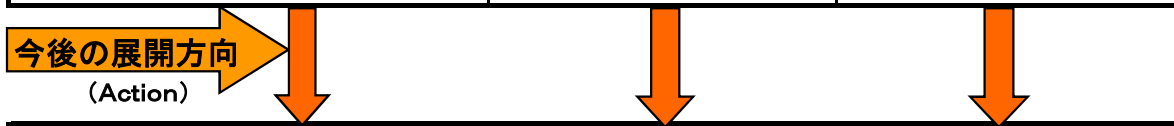
(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	公共用水域の水質保全、快適な居住環境が図られたことは、公平であると考慮する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 機器更新時期までの延命化を行うためには機器の当該事業を実施する必要があり、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持		
本事業を実施することで、機器の故障を未然に防ぐこととなるため、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 30

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		雄武公共下水道汚水管路調査事業				
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名		下水道係
	管理職	職名	課長		作成者	係長
		氏名	大場利昭			氏名
事業の概要	下水道管布設後10年を経過している主要な管渠について、管渠内清掃を含めた管渠内の状況(破損・侵入水)の把握を行う事業であります。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度) 国・道支出金 800 千円 地方債 720 千円 その他 1,380 千円 一般財源 千円 事業費計 2,900 千円	
実施方法	■ 直営	民間委託		その他 ()		
第5期総合計画(前期)		■ 登載事業	非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～				
	基本施策	17 上・下水道の整備				
	単位施策	2 下水道の普及促進				
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	800 千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	720 千円
	その他財源	1,250 千円	千円	千円	千円	80 千円
	雄武町負担額(一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円
	合計	1250 千円	千円	千円	千円	1600 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、浄化センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	下水道管渠の破損。	汚水管路調査延長				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	管路調査により状況調査と破損箇所を探索し、修繕の実施により不明水の抑制。	① 汚水管路調査延長／ 汚水管路調査延長の実績	指標(指標計算式/解説)			目標年度及び実績値
			目標年度	20年度		
			目標値	650 M		
			実績値	820 M		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	管渠破損箇所を発見し、侵入水を抑制することで雄武浄化センターの機器への負担と維持管理費の軽減。	②	達成度	126.2 %		
			目標年度			
			目標値			
			実績値			
達成度 %						
内容(どのような手段で何を行ったか)						
民間業者による委託の実施	TVカメラ調査機器を所有する民間業者に見積合せにより、業務を委託し管渠内の清掃と管渠内の状況調査を実施した。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	本事業を実施することで管渠破損箇所を発見することができ、侵入水を抑制することで雄武浄化センターの機器への負担と維持管理費の軽減が図られることから必要な事業である。当該事業を実施しない場合は、侵入水が増大し、浄化センターの機器に与える負担も大きくなるおそれがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	管渠破損箇所を発見し、侵入水を抑制することができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	見積合せにより事業費が抑制された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	侵入水を抑制することで雄武浄化センターの機器への負担と維持管理費の軽減が図られたことは、公平であると考えられる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 侵入水を防ぎ、浄化センター機器への負担、維持管理費の軽減が図られることから管路調査は実施する必要がある、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
雄武浄化センターの機器への負担並びに維持管理費の軽減に関連する侵入水を抑制するためには現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 31

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		沢木・幌内地区下水道事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	下水道係		
	管理職	職名	課長		職名	係長	
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	田原慎也
事業の概要	雄武市街地区の下水道整備率が80%を超えたことから、沢木及び幌内地区についても、汚水を排除し、公共用水域の水質保全や快適な居住環境を確保するために行う事業であります。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)		
事業費	国・道支出金			千円			
	地方債			千円			
	その他			千円			
	一般財源			千円			
	事業費計			千円			
実施方法	直営	民間委託		その他 ()			
第5期総合計画(前期)		■ 登載事業	非登載事業	優先度	C		
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	17 上・下水道の整備					
	単位施策	2 下水道の普及促進					
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務				
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額(一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円	
	合計	千円	千円	千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	公共用水域の水質悪化や快適な居住環境の確保ができない。	沢木・幌内地区他アンケート調査			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	公共用水域の水質保全や快適な居住環境の確保を目指す。	① アンケート調査箇所/アンケート調査箇所の実績	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	20年度	
			目標値	2 地区	
			実績値	0 地区	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	公共用水域の水質保全や快適な居住環境の確保。	②	達成度	0.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
達成度					
内容(どのような手段で何を行ったか)					
低コスト、早期整備が可能となる国の補助事業の創設に併せてアンケート調査を実施する予定でしたが、この補助事業に係る情報収集のためアンケート調査を見合わせており未実施となった。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	
必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

	設定した目標値の達成状況	
有効／概ね有効／課題あり	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

	判断の理由	
効率的／概ね効率的／課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

	判断の理由	
公平／概ね公平／公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

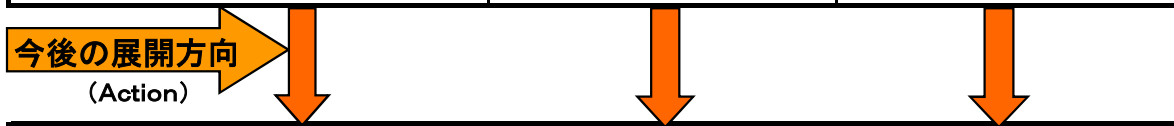
A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C	C	



継続／現状維持	継続／現状維持	
補助事業の創設等の状況に合わせてアンケート調査は実施することとなるため、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 32

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		雄武公共下水道事業															
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	下水道係												
	管理職	職名	課長		職名	係長											
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	田原慎也										
事業の概要	雄武町市街地区の汚水排除により、公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するために実施する事業であります。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)	<table border="1"> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>309,760 千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>241,600 千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>28,040 千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>6,600 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>586,000 千円</td> </tr> </table>		国・道支出金	309,760 千円	地方債	241,600 千円	その他	28,040 千円	一般財源	6,600 千円	事業費計	586,000 千円
国・道支出金	309,760 千円																
地方債	241,600 千円																
その他	28,040 千円																
一般財源	6,600 千円																
事業費計	586,000 千円																
実施方法	■ 直営	民間委託		その他 ()													
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業	非登載事業	優先度	A												
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～															
	基本施策	17 上・下水道の整備															
	単位施策	2 下水道の普及促進															
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務														
	その他計画・根拠等																
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)											
	国・道支出金	49,500 千円	27,200 千円	17,500 千円	94,400 千円	121,160 千円											
	地方債	37,300 千円	22,100 千円	15,700 千円	76,100 千円	90,400 千円											
	その他財源	2,300 千円	3,100 千円	2,100 千円	8,300 千円	9,440 千円											
	雄武町負担額 (一般財源)	2,499 千円	900 千円	1,200 千円	1,700 千円	2,200 千円											
	合計	91599 千円	53300 千円	36500 千円	180500 千円	223200 千円											

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	公共用水域の水質悪化や快適な居住環境の確保ができない。	管路延長・施設更新件数				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	公共用水域の水質保全や快適な居住環境の確保を目指す。	① 管路延長／管路延長の実績	指標(指標計算式／解説)			目標年度及び実績値
			目標年度	20年度		
			目標値	85 M		
			実績値	85 M		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	公共用水域の水質保全や快適な居住環境の確保。	② 施設更新件数／施設更新件数	指標(指標計算式／解説)			目標年度及び実績値
			目標年度	20年度		
			目標値	1 件		
			実績値	1 件		
内容(どのような手段で何を行ったか)						
民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、雄武公共下水道事業を実施した。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するためには必要な事業である。公共用水域の水質保全や快適な住環境の確保が出来なくなる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	管渠布設事業を実施したことにより、下水道普及率、水洗化率が向上となり、公共用水域の水質悪化の軽減が図られた。また、電気設備の改築更新事業の実施により、施設の延命が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	入札により事業費の抑制が図られた。また、マンホールの最大間隔の見直し、小口径塩ビマンホールの使用によりコストを削減した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	下水道管渠布設地域の住民から整備費の一部として、対象者から受益者負担金をいただいているので公平性が保たれている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するためには必要な事業であり、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持 管渠布設工事については、未普及地域を解消するためには必要な事業であり、浄化センターについては、老朽化している機器について改築更新を実施し施設の延命化を図るためには現状維持が適当である。		
--	--	--

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--